

令和5年8月29日

FIBA ワールドカップ 2023 フィンランド戦特集

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

男子アカツキジャパンやりました！！ 歴史的快挙です！！！！

FIBA ワールドカップ予選ラウンド第2戦のフィンランド戦、

「いやあ、素晴らしい逆転劇でした！！！！」 《日本98-88フィンランド》

6215日ぶり（17年と6日）の世界戦勝利です。FIBA ワールドカップに過去5回出場し、ヨーロッパ勢には一度も勝っていません。オリンピックでは1964年東京大会の予選ラウンドで、日本58-41ハンガリー、日本72-68イタリア、そして9-12位決定戦でフィンランドに54-45で勝利。すべての世界大会において、ヨーロッパ勢に勝利したのも59年ぶりの快挙です。

富樫 勇樹キャプテンの言葉です。

「ヨーロッパのチームに国際大会で勝つのは簡単なことではないですし、これは男子日本バスケットにとってすごく大きな一歩です」

試合を振り返ります。（詳しくは動画を観ていただければと思います）

立ち上がり共に固さが見られる展開であったが、日本のホーキンスンガリバウンド、コンタクトの激しいディフェンスを頑張り存在感を発揮。第1Qの中盤以降は途中出場の河村、立て続けにゴールに絡み9得点を上げた最年長の比江島らが中心となり、徐々にオフェンスが動き出す。

（第1Q終了時 日本22-15フィンランド）

第2Qに入るとフィンランドが反撃。日本はなかなか3Pシュートを決められず得点が伸びない中、フィンランドはNBAのユタ・ジャズのオールスター選手でありチームの大黒柱である、マルカネン(213cm)、ヤントゥネン(204cm)らにインサイド、アウトサイドからの得点を許し、**36-46と日本が10点差を付けられて前半を折り返す。**

後半に入ると我慢比べのような展開となるが、日本は徐々に点差を広げられ、残り3分を切ったところで日本53-71フィンランドと、この試合最大となる18点差をつけられてしまう。しかし、日本はここから粘り強さを発揮。必死のディフェンスで失点を抑える一方、ゴール下ではホーキンスンガリバウンドやシュートに奮闘し続け、点差を縮めていく。さらに第3Q終了間際には馬場が3Pシュートを決め、**再び63-73と10点差まで戻した。**

そして迎えた最終第4Q、河村、富永の22歳コンビが爆発する。河村はスピードを生かしたゲームメイクに4本中4本成功の3Pシュートなど積極的に得点に絡み、富永は得意の3Pシュートのみならず、攻守全般で縦横無尽にコートを駆け巡ってチームを盛り立て、主導権を徐々に手繰り寄せていく。

フィンランドは単調なアウトサイドシューを放つ場面が増えてリズムを崩し、シュート成功率が一気に下がり（3Pシュートは第3Qまでの15本中9本成功に対し、14本中3本成功のみ）、点差は徐々に縮まっていく。

日本は残り4分35秒に河村がファウルを受けながら、相手ディフェンスを交わしてスクープレイアップシュートを決めて78-78の同点に追いつき、さらにフリースローを1本決めて逆転すると、その後はさらにチーム全体でギアを上げ、このクォーターだけで35-15とフィンランドを圧倒し、

大逆転劇を演じてみせた。**最終スコア日本98-88フィンランド**。

日本は、ホーキソンが37分32秒とほぼフル出場で28得点、19リバウンドをマーク。フリースローは15本中14本成功とペイントエリアを制圧した。河村は25分11秒の出場で25得点、9アシストをマークし、富永は18分35秒の出場で4本の3Pシュートの成功を含む17得点。大黒柱の渡邊は足を故障した様子もあり、30分弱の出場で4得点にとどまるなか、3人を中心にもぎ取った勝利だった。

チーム全体のスタッツで振り返ると、オフェンスでは初戦のドイツ戦でわずか17.1%（35本中6本成功）だった3Pシュートの成功率が39.3%（28本中11本成功）に劇的に上昇。トム・ホーバスヘッドコーチは、このスタッツについて「そこまで（成功率約40%）いけば、私たちは危険ですよ」と胸を張った。またディフェンスでは、ホーキソンがリバウンドで存在感を示し、36-35とフィンランドを上回ったことも勝利の大きな要因であった。

最後に選手のコメントで締めくくります。最初にキャプテンの富樫選手です。

18点ビハインドされても「誰一人、諦めている選手はいなかったです。3Pシュートを1~2本決めれば一桁差に追いつき、そうなったら1~2分でひっくり返せるという自信がチームとしてあります。10点差のところではなかなか追いつかない時間帯はありましたが、そこをしっかりと我慢できたことが大きかったです」、また「この12人だけではなく、今まで代表に関わってくれたみんなや関係者など、いろんな人たちのサポートと、いろんなうまくいかないことを乗り越え、その経験を経て得られた1勝です。これからこの一歩を、さらにもう一つ上に行けるようなチームになっていけるように努力していきたいです」と語りました。

河村選手です。今大会の結果次第では代表引退も考えている渡邊選手に対して、「引退なんてさせないですよ」と河村選手は力強い言葉を贈ったそうです。そして「素晴らしいフィンランドに勝てたことは、自信を持っていいと思います。ただ、自分たちの目標はアジア1位になることであり、フィンランドに勝つことを目標にしてきたわけではないです。この後に全敗して、アジア1位になれなければ、この勝利も意味のないものになってしまいます」と語りました。

渡邊選手も「経験の差が勝負どころで出てくる中で勝ち切ったことが、今のチームにとっては何より大きな経験値になります。本当に苦しい時間もたくさんありましたけど、僕以外のメンバーが本当にがんばってくれて勝利できました」そして、「本当に大きな1勝ですが、まだまだ僕たちはこれからです。次のオーストラリアに勝てば、パリ2024オリンピック出場に大きく近づくとと思います。逆に、この1勝で満足してしまえば、パリへの切符を逃すことだってあります」とさらなる戦いに気を引き締めます。

富永選手は、「3Pシュートを決められたこともうれしかったですが、それ以上にディフェンスで貢献できたことで選手としての成長になり、自信がつく試合になりました」と喜びました。

最年長の比江島選手は、「ディフェンスでスイッチしてこなかったのが、多少のズレが起これば自分のものだと思っていました。ファウルをもらう技術を向上させてきたことがうまくいきました」とベテランらしいコメントでした。

またコメントはありませんが、28/19リバウンド、2Pシュート19/30本、3Pシュート11/28本、FT27/34本というモンスターの活躍を見せたホーキソン選手は、正にこの試合のMVPです！

さあ、打倒オーストラリア!! 目指せアジア1位!!! そしてパリ五輪へ!!!